



土屋地域の移動支援を「無償で提供」

平塚市土屋地区は、東西に向かって伸びる丘陵に挟まれた谷間にある里山です。春秋の季節には、土屋地区一帯を望む小高い山々からの景色は木々が小波を打っているように見えて格別な味わいがあります。当地区もこの数年、少子高齢化が進み、若者の流出や高齢者世帯も増えており、65歳以上の世帯が人口の4割を占めており、地域の高齢化が進む中で車や自転車等での移動が困難になったり、地区内にある大学施設の移転に伴うバス路線の減少などが懸念されています。

そこで「ふれあいサロン」と呼ばれる地区サロンへの参加者減少など地域の活性が衰えようとしている今、様々な課題を解決するために地域内の自治会で話し合いを重ね、平成30年に乗合交通アンケート調査を実施しました。このアンケート調査の結果、「公民館等への交通手段があればふれあいサロンにももっと参加したい」等の声を踏まえ、地区社協や公民館等が主催するサロン活動への送迎という課題をまず解決することから、地域の移送支援を盛り上げていこうということで、移動支援者で構成された土屋地区サロン送迎部会が発足しました。

また土屋地区も新しい社会に向けて変革に取り組んでいく必要があります。特に高齢化が進

み独居世帯が増加している地域で今やらなければならないことは買い物支援や通院の問題など数多くあり、高齢者が安心して生活できるように努力を重ねていかなければなりません。まずはハードルの低い「自宅からふれあいサロンへの送迎」という点に絞って活動を開始することになりました。活動を開始するにあたって地区内にある「つちや社会福祉会」の協力で、運営する施設から自動車保険やガソリン代を含めて無償で車両を貸与できることになり、ボランティアドライバーの協力もあって令和2年11月から活動を開始しました。

しかし令和2年から続く新型コロナの感染拡大が止まらず、ふれあいサロンの活動自体が一時中止に追い込まれてしまい、その後の送迎活動も今のところ中断せざるを得ない状況に追い込まれています。

また住民の生活や働き方も大きく変化し始めました。今なお続く感染拡大の影響を受け様々な不自由を余儀なくされています。そんな中でもまずは「移動する」という壁を少しでも低くすることで、普段の生活やコミュニケーションを活発にしていけることが高齢者の介護予防などに繋げることが出来ると信じて活動しています。

●基本情報

項目	内容
地区名	土屋地区
実施主体	土屋地区サロン送迎部会
開始時期	令和2年(2020年)11月
利用対象者	土屋地区に居住し、地区社協や公民館等の行事に参加する人
利用者数	7名(新型コロナ感染拡大でサロンの中止が続いている)
車両台数	(福)つちや社会福祉会所有の車両1台
自動車保険等	保険料、ガソリン代は(福)つちや社会福祉会の負担
運転者数/主な運転者層	3名(70歳代の平塚市の安全運転講習会修了者)
送迎に係る利用者負担	無償
予算規模	なし
今後の課題	・今後、利用者は増加予定ですが新型コロナ禍で引きこもり者が多く見られます。こんな状況を早く解決することが大切だと思います。 ・継続的に運転者を確保していくことが課題です。

●支援関係スタッフの声



小清水さん(土屋地区サロン送迎部会・会長)
ふれあいサロンの活動で他のメンバーと楽しそうに談笑している姿を見るこの活動を始めて良かったと思います。



綾部さん(移送支援リーダー・ドライバー)
地区内の大学施設が移転したあとのバスの減便が予想され、より一層危機感を強めています。



高津さん(移送支援者・ドライバー)
ほんの短い距離でも坂道の多い里山の土屋地区では高齢者の移動には苦勞が多いのだと痛感しています。



みんなで和むひと時



土屋ざる菊園に移動

